豊和鍛工流・ISO勉強会：第8回

品質は工程で作る！

現場の運用の合言葉は『識別と追跡』

NotebookLM

ISOの運用は「料理」に似ています

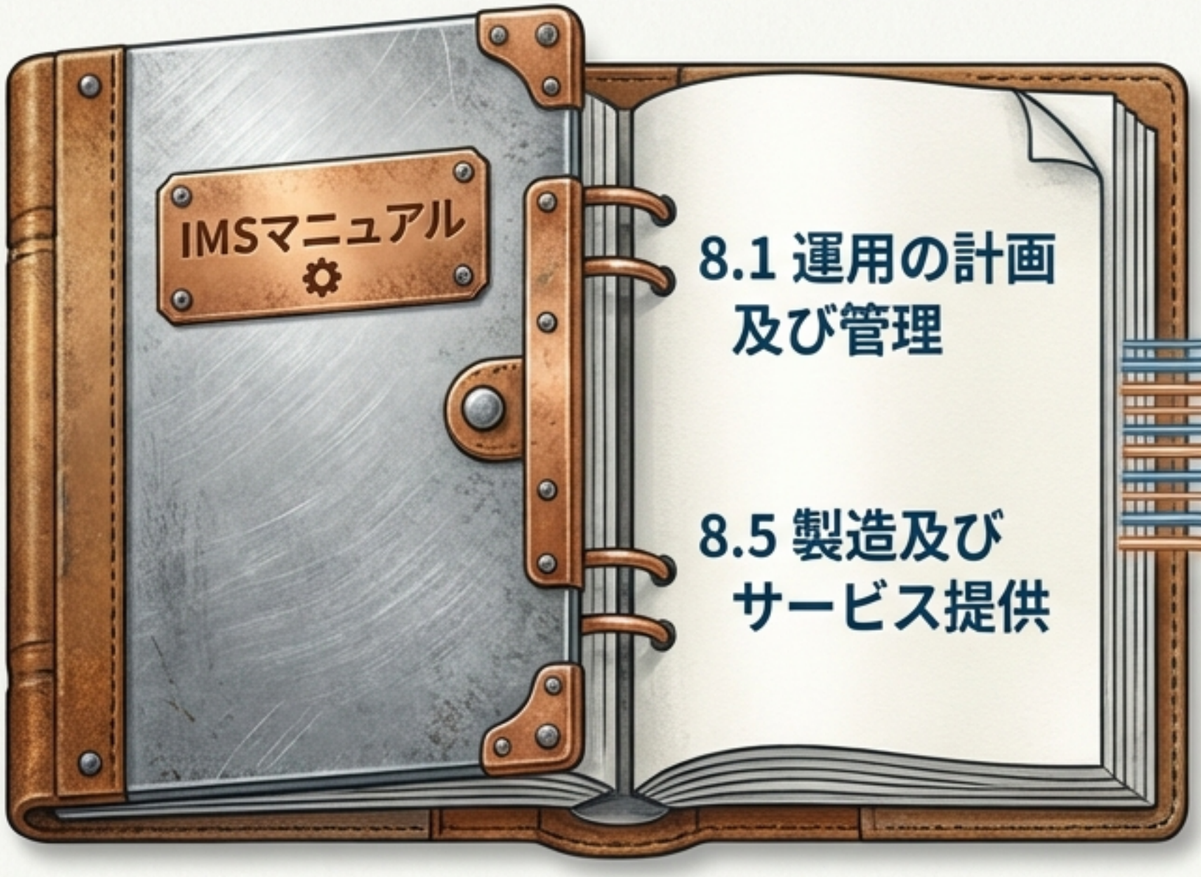
最後においしい（高品質な）料理を
出すためには、何が必要でしょうか？

- 新鮮な材料を選ぶ
- 決まった火加減を守る
- 調味料を正しく量る

出来上がってから「塩辛すぎた！」となっても、元に戻すのは大変です。
だからこそ、「品質は最後の検査ではなく、途中の工程で作るもの」なのです。

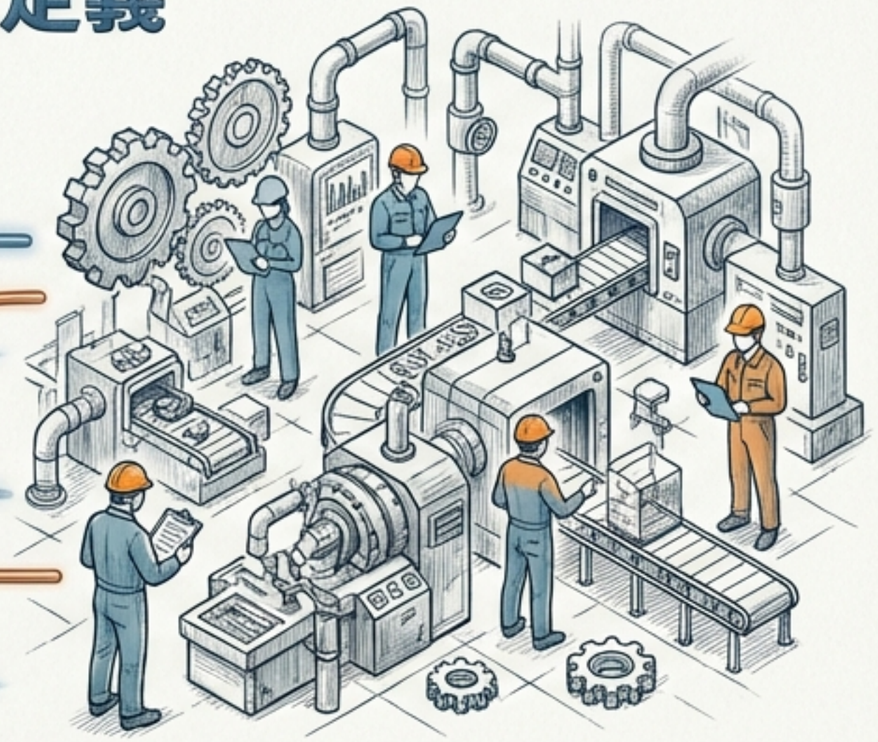
NotebookLM

豊和鍛工のルール（IMSマニュアル）での定義



8.1 運用の計画
及び管理

8.5 製造及び
サービス提供



基準を決める → 合否判定基準
管理された状態で実行する

現場をコントロールするための「合言葉」を学びましょう。

NotebookLM

現場の地図・レシピ：QC工程表

⚙ QC工程表とは？

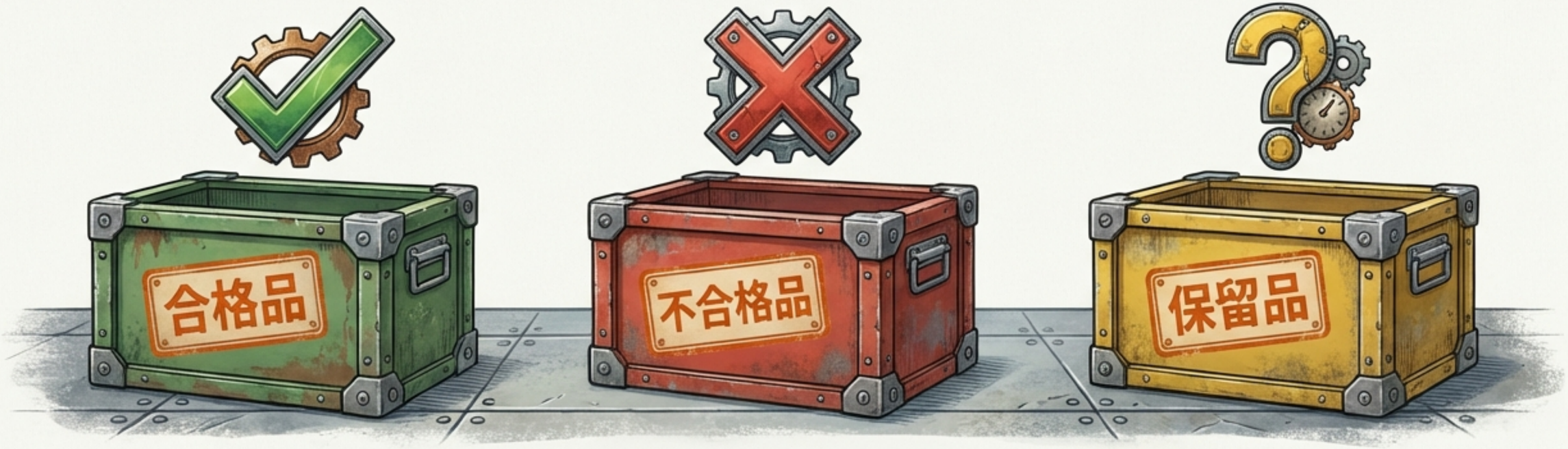
材料の受入から出荷まで、
「どの工程で」
「誰が」
「何をチェックし」
「どの記録を残すか」
が書かれた
「マスター図」です。

作業前に必ず
確認しましょう。

NotebookLM

合言葉①：識別（しきべつ）

「これは何？」を一目で分かるようにする



製品の識別（8.5.2）

すべての製品が「何であるか」を区別すること。

合格品、不合格品、保留品が混ざらないようにすること。

NotebookLM

現場での「識別」の実践

適合した製品だけを次工程に送る

- **置き場所による識別：**
  混入を防ぐため、置く場所を明確に分ける。
- **ロット管理票：**
  製品の「身分証明書」。バケツや箱に必ず付いているか確認する。

NotebookLM

合言葉②：追跡（ついせき）

「いつ、誰が、どの材料で？」を辿れるようにする

トレーサビリティ（8.5.2）

万が一のときに、履歴を遡（さかのぼ）れるようにすること。

NotebookLM

なぜ「追跡」が必要なのか？

もし、お客様から「この製品に傷がある」と言われたら？

記録がある場合
(OK)

「ルール通りに検査し、合格した」という記録があれば、堂々と説明できます。
原因調査が素早くできます。

記録がない場合
(NG)

どんなに一生懸命作っていても、正しさを証明できません。

NotebookLM

特殊工程：見た目では分からない品質

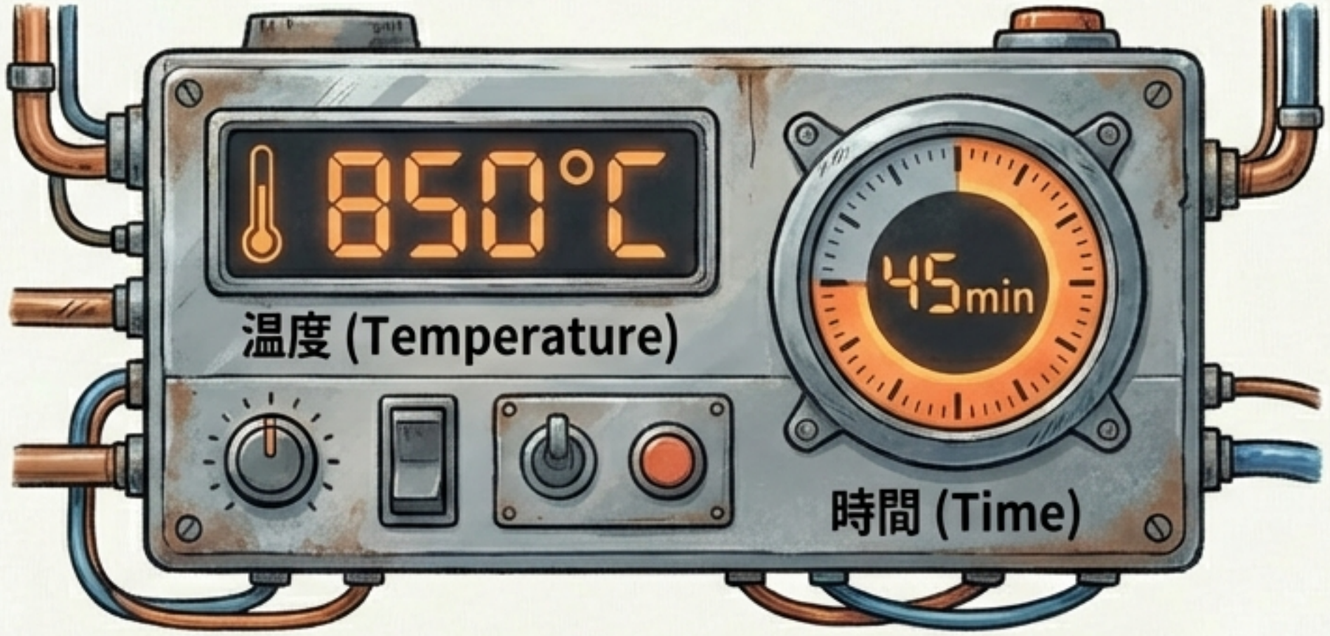
特殊工程（Special Processes）

- 後で検査しても、中身がちゃんとできているか分かりにくい工程。
- 例：鍛造焼入れ、熱処理
- 破壊しないと確認できない（硬度や内部組織）。

NotebookLM

特殊工程は「条件」がすべて

妥当性確認（Validation）



- 条件を守る：温度や時間など、決められた「条件表」通りに作業する。
- 資格者が行う：「有資格者リスト」に登録されたプロが作業する。
- 変化時の再確認：設備や条件が変わったら、必ず妥当性を再確認する。

NotebookLM

ミスを防ぎ、信頼を守る

1. ヒューマンエラー防止

人は誰でも間違えます。
だから「仕組み」で防ぎます。
例：写真付き手順書、
治具（じぐ）の活用。

2. 顧客所有物の管理

支給された材料や図面は「預かり物」。
紛失・損傷に注意し、異常があれば
「支給材料品異常連絡書」で報告。

NotebookLM

現場の皆さんがやるべき「3つのアクション」

QC工程表を見る

作業前に必ずルール（レシピ）を確認する。

ロット管理票を確認する

「識別」と「追跡」の命綱。次工程へ正しく送る。

条件・記録を守る

特に特殊工程は条件厳守。
記録は「誇りの証拠」として残す。

NotebookLM

記録は「面倒な作業」ではありません

皆さんの仕事の「プライド（正しさ）」を

証明する唯一の武器です。

「品質は工程で作る」

NotebookLM